

5 ラウンドシステムにおける「話すこと」の力を支援する ICT 活用
(中1~3 5ラウンド)

- ① 聞く ①話・発 ③TV ③タブ ③デジ教

【ここがポイント！】

- ① 「タブレット・大型 TV を使ってトピックを提示」
ラウンドシステムを通して「自分の言葉で事実や意見を伝えることができる力」を育成することを目指している。タブレットや大型テレビを活用し、日常的话题、社会的な話題など様々なトピックを提示し、目的・場面・状況を明確に設定した中でやり取りを行う。
- ② 「デジタル教科書を活用したフィードバック」
教科書本文の発音やイントネーションは教師が説明するより、生徒がデジタル教科書の音声を活用し、モデルを真似ることを大切にしている。
- ③ 「録音・録画機能を活用したスピーキングテスト」
生徒はタブレットを活用し、録音・録画したものを保存する。パフォーマンステストとして実施するだけでなく、録音・録画したものを数か月後に生徒自身が確認して、話すことへの伸びを把握し、学習改善に生かす。

【実践の目標】

日々の授業で ICT 機能を活用し、与えられた目的・場面・状況を踏まえて、自分の言葉で表現する生徒を育成する。

【実際の場面】

ラウンドシステムの授業では、生徒の「話す」力を育成するため、デジタル教科書のピクチャーカードや本文の読み上げの機能を活用した。スピーキングテストに向けて、日頃から場面を設定した中でのやり取りを大切にしたい。YouTube を使用し、人種差別や SDGs など社会的な話題も取り上げ、やり取りや発表を行った。

◆教科書をフルに活用

ピクチャーカードを大型テレビで表示し、ストーリーの概要を把握するとともに、ストーリーの内容について、生徒とやり取りを行った。目的・場面・状況をはっきりと設定している教科書を使うことで、その場に応じた表現を使おうとする生徒の姿が見られた。

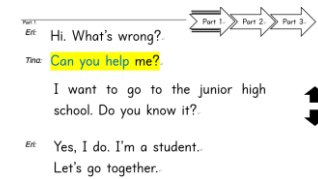


◆デジタル教科書を活用したフィードバック

教科書の音読やリテリングにおいて、デジタル教科書を使ってフィードバックを行った。

音読では、教科書の読み上げ機能を活用し、生徒自らがモデルを真似ようとした。

また、リテリングでは、デジタル教科書の「ドラマ」の登場人物の心情等を読み取り、生徒が自分の言葉でその心情を表現しようとした。



◆場面を設定したスピーキング活動

パフォーマンステストの時だけ、目的・場面・状況を設定するのではなく、日々のスピーキング活動において、レストランでのやり取りなど、具体的な場面を設定した。

生徒が表現する際、教科書で扱われている内容を活用する生徒も多く、インプットした一部をアウトプットしようとする生徒もいた。

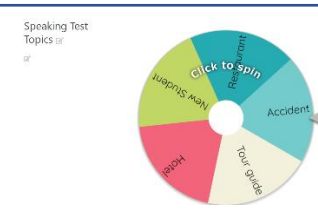
このような活動を継続することで、最初は 30 秒しか話すことができなかった生徒が、2分以上やり取りを続けることができるようになった。



◆読んだり聞いたりしたことについて発表

初見の読み物教材や YouTube で社会的な話題も取り上げ、読んだり聞いたりしたことについて、自分の意見を表現したりする活動を行った。

録音・録画したものは、生徒自身が確認し、フィードバックを重ねることで、学習改善に生かすことができた。



【成果と課題】

【成果】

- 教師が見通しをもったフィードバックを継続したり、生徒がタブレットを使って録音・録画したものを振り返ったりすることで、生徒は「以前より表現の幅を広げることができた」「新しい表現をもっと知りたい」と前向きに取り組むようになった。
- 教科書だけでなく、補助教材として YouTube で社会的な話題に触れることで、「他にも色々な教材を読んでみたい」と感じる生徒が増えた。

【課題】

- 社会的な話題に関することについて、自分の思いを身近な英語を用いて発表することはできるようになってきたが、そのテーマについて相手に質問するなど、やり取りを行うことはまだ十分でない。

